



発刊：令和8年2月

発行：第48回全国育樹祭宮城県実行委員会



第48回

みやぎ2025
全国育樹祭
次世代へ みどりのかけ橋 森づくり

第48回全国育樹祭併催行事

全国緑の少年団 活動発表大会

— 開催の記録 —

【主催】宮城県・公益社団法人国土緑化推進機構 【後援】白石市

開催の概要

「第48回全国育樹祭」の併催行事として、全国から選ばれた緑の少年団による日頃の特色ある地域活動の発表のほか、特別講演などを行い、少年団相互の交流と活動の促進を図りました。

主催：宮城県・公益社団法人国土緑化推進機構 後援：白石市

とき 令和7年10月4日(土)

ところ 【活動発表大会】
白石市文化体育活動センター ホワイトキューブ
【交流集会】
宮城県総合運動公園(グランディ・21)リフレッシュプラザ

行事内容

【活動発表大会】

- 12:00～ 開場・受付
- 13:35～ 歓迎アトラクション
オルガニスト 後藤 香織 ～パイプオルガン演奏～
- 14:00～ 団旗入場
主催者あいさつ
歓迎のことば
来賓紹介
励ましのことば
- 14:27～ 講評者紹介
活動発表(少年団5団)
- 15:40～ 特別講演
eco実験パフォーマー らんま先生
～らんま先生のSDGsサイエンスステージ～「森と水の大切さを学ぼう！」
- 16:29～ 講評
みどりの奨励賞表彰(国土緑化推進機構理事長賞)
緑の少年団育成成功労賞表彰
- 16:41～ 閉会のことば

【交流集会】

- 16:00～ 交流集会

目次

開催の様子	1
団旗入場	3
主催者あいさつ	4
歓迎のことば	6
励ましのことば	7
来賓・講評者	8
活動発表	
活動発表1 <small>かみさつない</small> 上札内緑の少年団(北海道)	9
活動発表2 <small>たいわちようよしだ</small> 大和町吉田みどりの少年団(宮城県)	12
活動発表3 <small>にしやま</small> 西山小学校緑の少年団(福島県)	15
活動発表4 <small>きよみ</small> 清見中学校緑化少年団(岐阜県)	18
活動発表5 <small>あさくら</small> 朝倉緑の少年団(愛媛県)	21
特別講演	24
講評	25
みどりの奨励賞表彰(国土緑化推進機構理事長賞)	27
緑の少年団育成成功労賞表彰	28
閉会のことば	29
緑の少年団参加一覧	30
交流集会	31
(付録)宮城県内みどりの少年団活動紹介パネル	32

開催の様子



白石市文化体育活動センター ホワイトキューブ



会場の様子



受付の様子



県内みどりの少年団活動紹介パネル展示



歓迎アトラクション オルガニスト/後藤 香織 ~パイプオルガン演奏~



司会 齋藤 幸恵



配布物

本大会では、^{あきしのみやこうし どう ひりょうでん か}秋篠宮皇嗣同妃両殿下の御観覧を賜りました。



活動発表御観覧



緑の少年団へのお声かけ

団旗入場



上札内緑の少年団



大和町吉田みどりの少年団



西山小学校緑の少年団



清見中学校緑化少年団



朝倉緑の少年団



団旗入場の様子



主催者あいさつ



公益社団法人国土緑化推進機構 副理事長

おき しゅう じ
沖 修 司

皆さん、こんにちは。

御紹介いただきました国土緑化推進機構副理事長の沖でございます。

本日、第48回全国育樹祭の併催行事であります、全国緑の少年団活動発表大会がここ白石市のホワイトキューブにおいて開催できますことを、主催者の一人として大変うれしく思います。また、御多忙の中、林野庁の小坂長官、白石市の村上副市長をはじめ、多くの御来賓の皆様に出席いただき、誠にありがとうございます。

さて、緑の少年団の皆さんは、地域における森林づくりなどの緑化運動に大いに活躍されますとともに、「緑の募金」にも大変な御協力をいただいております。こうした取組は、地域で高く評価され、感謝されております。

また、緑の少年団の皆さんは、森林が地球温暖化の防止、生物多様性の保全、自然災害の防止といった様々な役割を持っていることについて、体験する、調べる、考えるといった学びを実践しておられます。このことは、SDGsの達成が世界的課題となっている中で、極めて意義のあることです。

今後とも、緑の少年団活動を通じて、森林についてよく学びながら、緑化運動の大きな力となっていただくことを願っております。本日活動発表していただくのは、これまでの活動状況や成果が特に優れた少年団として、全国から選ばれた5団の皆さんです。元気いっぱい日頃の活動の成果を発表してください。

また、本日表彰をお受けになる緑の少年団育成成功者の方々をはじめ指導者の皆様には、平素から緑の少年団の育成・指導に御尽力をいただいております。この場をお借りいたしまして、厚くお礼申し上げます。

近年、環境の保全に対する要請が世界的に高まる中、緑の少年団活動の重要性も益々高まっていると考えており、皆様方の引き続きの御支援を切にお願い申し上げます。

最後になりましたが、活動発表大会の開催にあたり、御尽力を賜りました宮城県御当局をはじめ、関係者の皆様にお礼を申し上げ、御挨拶いたします。

主催者あいさつ



宮城県 副知事
こばやし のり みつ
小林 徳光

緑の少年団の皆さん、そして保護者や指導者の皆様、ようこそ宮城県へお越しくださいました。心より歓迎申し上げます。また、本日はお忙しい中、林野庁の小坂長官、開催地白石市の村上副市長をはじめ、多くの御来賓の皆様にご出席を賜り、厚くお礼申し上げます。

さらに、この後、秋篠宮皇嗣同妃両殿下の御臨席を仰ぎ、この大会が開催されますことは誠に光栄なことであります。

本日の活動発表大会では、全国から選ばれた5つの少年団の皆さんに、日頃の緑化活動について発表いただきます。本日の大会に向け、皆さんは、一生懸命に練習を重ねてこられたと思います。その素晴らしい活動発表を心から楽しみにしております。

さて、ここ宮城県は、四季折々の美しい自然と豊かな資源に恵まれた地域です。肥沃な大地と清らかな水を活かした稲作や園芸作物は全国屈指の生産量を誇り、三陸沖の漁場からは四季を通して新鮮で多彩な水産物がもたらされます。また、森林は県土の6割を占め、木材の生産、林業の振興はもとより、二酸化炭素の吸収や水源の涵養^{かん}など、環境を支える大切な役割を担っております。

このような中、本日から、我が県において、「次世代へ みどりのかけ橋 森づくり」を大会のテーマとした「第48回全国育樹祭」を開催しています。本大会では、「持続可能な森林づくりの継承」、「伝統と新技術による木材利用の発信」、「震災の教訓の伝承と新たな価値の創造」を3つの柱とし、様々な行事が行われます。

この育樹祭や本日の活動発表大会を通じて、先人が守り、大切にしてきた森林や自然が、この先も末永く、美しく育まれることを全国に向けて発信したいと思います。

宮城県は東日本大震災で大きな被害を受けましたが、全国の皆様からいただいた温かい御支援により、復興を進めることができました。その御恩に心から感謝し、未来に向けて歩んでまいります。

結びに、全国の緑の少年団の皆さんや本日も集まりの皆様のごさなる御活躍を祈念し、挨拶いたします。

歓迎のことば



白石市 副市長
むら かみ ただ のり
村上 忠則

全国緑の少年団活動発表大会の開催にあたり、開催地を代表いたしまして、一言御挨拶申し上げます。

本日は秋篠宮皇嗣同妃両殿下の御臨席を仰ぎ、本大会がここ白石市におきまして盛大に開催されますことをお喜び申し上げますとともに、全国各地から御参加いただきました緑の少年団の皆様を心から歓迎申し上げます。

緑の少年団は、次代を担う子供たちが、緑と親しみ緑を愛し、緑を守り育てる活動を通じて、ふるさとを愛し、人を愛する心豊かな人間に育っていくことを目的に、1960年から各地で結成され、現在、約3千の少年団で約31万2千人の児童・生徒の皆さんが緑化活動を実践されていると伺っております。

本日開催される全国緑の少年団活動発表大会は、全国から選出された緑の少年団が一堂に会し、日頃の活動成果を発表していただくとともに、緑の少年団相互の研鑽^{けんさん}や交流を図るための大会であります。本大会が皆さんの今後の活動の糧となり、また励みにつながりますことを願っております。

結びに、本大会の開催にあたり御尽力いただきました、関係者の皆様方に深く感謝の意を表しますとともに、御参集の皆様方の益々の御活躍と御健勝を御祈念申し上げまして、歓迎の御挨拶とさせていただきます。

励ましのことば



林野庁 長官
こ さか ぜん た ろう
小坂 善太郎

皆さん、こんにちは。

本日、ここ宮城の地で、「全国緑の少年団活動発表大会」が開催され、全国からたくさんの緑の少年団の皆さんに集まってもらえたことを心から嬉しく思います。

皆さんは、日頃の活動や学校の授業を通じて、森林の働きや、その大切さを学ばれているかと思います。ここ、宮城県は県土の約6割が森林であり、蔵王連峰の山々や、日本三景として知られる松島などがある自然豊かなところですよ。森林は、洪水や山崩れなどの災害から私たちを守るとともに、おいしい水やきれいな空気を作り、多くの生き物たちのすみかにもなっています。また、今年の夏も暑い日が続きましたが、森林は二酸化炭素を吸収し炭素を蓄え、地球温暖化の防止に貢献してくれています。さらに、森林から生み出される木材を、建物や家具の材料として利用することは、森林が吸収してくれた二酸化炭素を長期間貯蔵することとなり地球温暖化防止効果が高まります。最近では技術の開発が進み、木を使って高いビルなども作られるようになりました。このような森林の働きをしっかりと発揮させるためには、森林が元気でなければなりません。皆さんが、家族や地域の方々の協力を得ながら、森林や緑の大切さを積極的に学び、森林を元気にしてくれていることを、私はとても心強く思っております。

今回の発表では、苗木づくり、植樹や育樹、花壇整備、樹木の生育状況調査など様々な活動が発表されると聞いています。どれもみな、森林や緑を守ることに繋がるとても大切なものであり、守られた森林や緑は将来にわたって私たちの貴重な財産となるはずですよ。緑の少年団は全国で3千近くの団体があり、約31万人の仲間たちが活動しています。皆さんには、活動をきっかけに、ぜひ自然への興味を深めていただき、友達や地域の方々と力を合わせて森林を守り育て、未来に引き継いでいただきたいと思っております。

最後に、緑の少年団の育成に御尽力されている全国各地の皆様、本大会の開催に御尽力いただいた全国緑の少年団連盟の皆様、地元の宮城県の皆様、そして国土緑化推進機構をはじめとする大会関係者の多くの皆様方に、心から感謝を申し上げ、励ましのことばといたします。

来賓・講評者

【来賓】

林野庁 長官
こ さか ぜん た ろう
小坂 善太郎

林野庁 森林利用課長
ます やま とし まさ
増山 寿政

林野庁
東北森林管理局 森林整備部長
うし お ひかる
牛尾 光

白石市 副市長
むら かみ ただ のり
村上 忠則

宮城県 副教育長
ち ば じゅん いち
千葉 潤一



【講評者】

林野庁 森林利用課長
ます やま とし まさ
増山 寿政

林野庁
東北森林管理局 森林整備部長
うし お ひかる
牛尾 光

公益社団法人国土緑化推進機構
専務理事
おり た ひろし
織田 央

宮城県 副教育長
ち ば じゅん いち
千葉 潤一



林野庁 森林利用課長
増山 寿政



林野庁 東北森林管理局 森林整備部長
牛尾 光



公益社団法人国土緑化推進機構 専務理事
織田 央



宮城県 副教育長
千葉 潤一



かみ さつ ない
活動発表1 上札内緑の少年団 北海道



タイトル

**自然とともに育ち、
つながる未来へ
～学び・守る・楽しむ活動の実践～**

発表者

はやし
林 にこさん(写真左)
 ほそえ りくと
細江 陸人さん(写真右)

みなさんこんにちは、「上札内緑の少年団」です。私たちは令和3年度に結成された5年目の少年団です。よろしくお願いします。

私たちが住んでいる中札内村は、昨年度、国立公園に指定された「^{ひだかさんかく えりも とかち こくりつこうえん}日高山脈 襟裳十勝 国立公園」の裾野にあり、「花と緑とアート」の村」をかかげ、「日本で最も美しい村連合」にも加盟している「自然豊かで美しい村」です。

上札内小学校は、日高山脈から距離が近い場所にあり目の前に雄大な山並みを、眺めながら日々過ごしています。校区には清流を蓄える「^{さつないがわ}札内川ダム」もあり、毎日おいしい水を飲むことができるのも、豊かな自然のおかげです。

そのような自然環境の中で、私たちは「緑を育て、心を育て、社会に活かす」という目的をかかげて、学校と地域が協力をして、活動をしています。

また、学校の敷地内では、「学習林や散策道」「ツリーハウス」「丸太のベンチ」「木のブランコ」「しいたけの原木栽培」に取り組みしており、日々、木々や自然とふれあうことができます。

これから、上札内緑の少年団の活動を3つのテーマに分けて発表します。

1つ目は【学習活動を通して学ぶ】、2つ目は【地域貢献活動を通して守る】、3つ目は【レクリエーション活動を通して楽しむ】

です。「自然から学び、自然を守り、自然を楽しむ」を合い言葉として活動しています。

まずは、「学ぶ」活動を紹介します。

私たちは、ただ自然にふれるだけでなく、「なぜ、この季節に鳥がよく見えるのか?」「川辺には、どのような山菜があるのか?」など、疑問に思ったことについて学ぶことを大切にしています。

春には、バードウォッチングをしました。まだ、木の葉が、出そろっていない5月は、鳥がとても見やすい時期であることを教えてもらいました。

札内川の川辺では、山菜採りをしました。ふだん何気なく見ていた植物の中にも、食べられる山菜があることを知り、「自然」と「食」のつながりも学びました。

学校の敷地内では、バードハウスを設置しました。どの高さが鳥にとって安心か、どの木が適しているかを考えながら取りつけました。

また、村民文化祭にむけては、枯れ枝や、木の実を、素材に活用し、「生け花」を作りました。完成した作品を会場に展示すると、「自然の美しさと、子ども達の感性に癒やされた」との感想をいただき、自分たちの学びが地域の人の心に届いたことがうれしかったです。

日高山脈の雄大な自然について学ぶ機会がありました。太古の昔から人の手が加えられていない自然が今も残っていることが、日高山脈の大きな特徴であることを知りました。学習のあとはフィールドワークを行い、日高山脈に自生している木々や、動植物や昆虫などについて詳しく知ることができました。また、バードコール作りにも挑戦し、自然とのふれあいを深める、心に残る貴重な体験となりました。

次に、「守る」活動を紹介します。

まずは、私たちは「北海道植樹の日、育樹の日条例」に基づいて、春には学校の敷地内に植樹をしました。桜の木が元気に育ち、何十年後かに、地域の皆さんに、笑顔を届けてくれる日がくることを、今から楽しみにしています。

秋には「育樹」の活動として、学習林で枝打ちにも取り組んでいます。木が健康やかに育つように手入れをすることの大切さを、この活動を通して学ぶことができました。





「モルック」というスポーツも体験しました。モルックを通して高齢者の方とふれあうことができ貴重な体験となりました。私たちは、四季を通し、自然とふれあう活動の1つとして、リースづくりにも取り組みました。

春には、学校の花壇に種をまき、夏になると、満開になった花を摘み、乾燥させ、準備をしました。

秋には、どんぐりや松ぼっくり、形の良い枯れ枝などを拾い集めました。集めた材料を使って、世界に1つだけのオリジナルリースを作りました。「こっちに赤い実をつけたら秋らしくなるかな?」と話しながら、時間をかけて一人ひとりが心を込めて仕上げました。

完成したリースは、道の駅にブースを設けて、販売しました。「この花は学校で育てました」と伝え、「すてきですね」と声をかけてくださるかたもいて、うれしかったです。売り上げで得たお金は、役場に寄付し、地域の福祉のために役立てていただいています。

最後に、「楽しむ」活動を紹介します。

楽しむ活動も上札内緑の少年団の特色の1つです。学校のクラブの時間には、「モルック」を体験しました。

また、カヌー体験もしました。日高山脈のふもとにある砂防ダムで、カヌーに乗り、水の上をすべるように進む感覚や、まわりの自然の音がとても心地よく、木のぬくもりも感じられました。

このように、豊かな自然の中で、たくさんのお話を学んできました。その活動を通して感じたのは、「自然のありがたさ」や「人と人との温かなつながり」、そして「自分たちの住む地域を思いやる気持ち」の大切さです。

そして、この経験こそが、「これからの未来をつくる力」になると信じています。これからも、自然とともに歩みながら、地域の未来を思い、活動していきたいと思えます。小さな力かもしれませんが、その積み重ねが、きっと大きな力になることを信じています。

ご清聴、ありがとうございました。



タイトル
 広がれ、ぼくらの願い、
 つなごう未来へ
 ~吉田の緑と自然をいつまでも!~

発表者
 おだ ゆうと
 織田 友優斗 さん(写真中)
 きよた ななえ
 清田 奈々絵 さん(写真左)
 ほりごめ しゅんせい
 堀籠 駿成 さん(写真右)

こんにちは。私たちは宮城県黒川郡大和町の「吉田みどりの少年団」です。大和町は宮城県中部に位置し、仙台市と隣接する、自然豊かな町です。私たちの住んでいる吉田地区は、船形山や七ツ森などの山々に囲まれ、緑にあふれています。

みどりの少年団は、昭和52年に大和町立吉田中学校にできました。その後平成21年4月から吉田小学校が引き継ぎました。今年で16年目を迎え、団員は全校児童42名です。

これから、花壇整備や田畑の活動の他にみどりの少年団が取り組んでいる4つの活動について紹介します。

1つ目は、1、2、3年生による林間教室です。6月と10月の年に2回、学校ボランティアさんに案内していただき、廃校になった分校で自然観察をします。6月には、草笛を作ったり、たんぼの根を掘り起こしたり、水生生物を観察したりしました。私たちが3年生の時には、モリアオガエルの卵やシュレーゲルアオガエルを見つけました。鮮やかな黄緑色の体と赤い目がとてもきれいだっただのを覚えています。10月には、クルミを割り、実を取り出したりする活動に夢中になりました。また、アケビのつるでリース作りも楽しみました。春と秋の植物の様子の違いにも気付くことができました。11月には、1年生がアオダモの種を植えます。





また、令和3年度から3年間、蛍の幼虫を放流しました。令和6年度からは、放流を控え、自然の力に任せていますが、今でもたくさんのゲンジボタルやヘイケボタルを見ることができます。

2つ目は、3・4年生による林間教室です。毎年9月に、吉田愛林公益会の職員の方に案内していただき、天然のブナの森を観察します。愛林公益会の方から、「このブナの根っこは人間で言うと足だよ。」と教えられて、ゆっくりと歩きました。このブナの根がこの山を守っていることがよく分かりました。それから、手をつないでブナの木を囲んでみると、なんと、5m以上もあり、びっくりしました。ブナの木は空気をきれいにし、水をため、海に栄養たっぷりの水を届けることも教えていただきました。

近くの船形神社に寄り、真っ直ぐにのびた樹齢300年のスギの木を間近で見ましたが、とても迫力がありました。また、さわってみると、ブナの木と違って表面がゴツゴツしていました。ブナの木は「広葉樹」、スギの木は「針葉樹」とよび、木の表面や葉の形の違いについて教えていただきました。

3つ目は、4年生による林業体験です。6月に吉田地区にある「体験の森」に行き「アオダモ」の苗を植えてきました。まず、なたを初めて使って、添え木を作りました。次に、山の斜面にアオダモの苗を植えました。体をささえるのも、くわで土を掘るのも大変でしたが、地域の方や育成会のみなさんに手伝ってもらって植えることができました。最後に、添え木と自分の名前の立て札を立てました。私たちが植えた「アオダモ」は、80年後に切り出され、野球のバットになるそうです。アオダモが体験の森にしっかり根を張って成長していけるように見守っていきたくです。植樹のあとに、木の枝打ちも体験しました。

4つ目は、6年生の林業体験です。毎年11月に、4年生のときに植樹したアオダモの周りの下草刈りを行います。ここからは、昨年度の6年生の感想を紹介します。

アオダモは、高さは80cmくらいで、思っていたほど大きくなってはいませんでした。アオダモには、つるがからまり、背の高い

雑草に囲まれていて驚きました。その後、地面を掘って、中が湿っているのを確認しました。育成会の方から、山に降った雨は土の中にためられ、木の根がその土を流れないようにしているのだと教えていただきました。山に水を蓄えるためには、木がとても大切な役割をしていること、そして、「木を守ることは「水を守ること」につながるということが分かりました。

さらに、吉田の山に蓄えられた「水」が大和町だけでなく少し離れた大崎市にも送られていることを知り、吉田の緑や木を守っていくことの大切さを改めて感じたそうです。

11月の林業体験でのアオダモとの2年ぶりの再会が楽しみです。

私たちは、6年間、吉田地区の皆さんと一緒に活動し、森を守る大切さや自然のすばらしさを学んでいます。そして、吉田の森や自然が私たちの暮らしを守ってくれていることにも気付くことができます。これからも吉田の森と自然をいつまでも保ち続けられるように、みどりの少年団での体験や学びを生かし、自分ができることを考え続け、緑や自然と触れ合っていきたいです。そして、この私たちの思いや願いを会場の皆さんや他の地域のみなさんと一緒に、未来へつなげていきたいと思ひます。

これで、大和町吉田みどりの少年団の発表を終わります。ご清聴ありがとうございました。



7

8

9



10



11



12



13



14



15



16



17



18



19



20



21



22



23



24



25



26



タイトル
地域とつながり西山の未来を担う
～植栽活動・
森林環境学習を通して～

発表者
 まつのはやと
松野 楓人 さん(写真右)
 おおいきよはる
大井 心晴 さん(写真中)
 やまうちまあや
山内 真文 さん(写真左)

私たちは、西山小学校緑の少年団です。

私たちが通う西山小学校は、福島県、会津中部に位置する柳津町の南西、温泉がわき、地熱発電所からでる蒸気を眺めることのできる場所にあります。

柳津町は、赤べこ発祥の地として知られており、赤べこをモチーフにした商品やキャラクターがたくさん作られています。学校のエントランスにある赤べこプランターも、季節の花々で来校者を迎えます。

西山小学校緑の少年団は、平成17年に結成しました。21年目をむかえた今年の団員数は6名と大変少ないですが、「緑に親しみ、緑を愛し、緑を守り、育てる」ことをめあてにして、2年生1人を加えた全校生7名で様々な活動に取り組んでいます。

私たちの少年団の活動は、大きく分けると二つあります。

一つ目は植栽活動です。学校には学年ごとの花壇と畑があります。冬の間たくさんの雪が積もった花壇も、雪どけとともに春の花が咲き始めます。前年の秋に植えた「チューリップ」や「わすれな草」です。チューリップはとても大きく、学級ごとに写真を

撮ったり、落ちた花びらを集めて遊んだりしました。

6月には球根を掘り起こし、夏に向けて花壇の整地や肥料入れ、苗の準備などを行います。そして、7月の始めに花壇づくりを行います。何をどのように植えるか、学年ごとに花の色や大きさなどを考えながら決めます。今年の夏の花壇は「サルビア」や「千日紅」を選ぶ学年が多かったようですが、やさしい緑色でまるい形に育つ「コキア」は毎年人気が高いです。

10月末には花を抜いて整地し、来年の春のためにチューリップの球根を植えます。

学校だけでなく、地域の方々と協力して行う植栽活動もあります。それが『ロードフラワー』です。

5月に「マリーゴールド」の種をまきます。今年は2色600ポットを用意しました。6月末、道路わきの花壇に苗を植えます。町内の中学1年生と一緒にいきます。今年度は天候不良のため植栽活動が中止となりましたが、地域の方が植えてくださり、「種まきが上手で丈夫な苗ができた」とほめていただきました。11月の整地作業では、抜いた花を樹木の根元に積むことで樹木を育てることにつながると知りました。

『ロードフラワー』活動は、柳津町の住民として進んで地域の緑化に関わることのできる素晴らしい活動です。

二つ目の活動は、柳津町の農林振興係の方や、森の案内人の方の協力を得ながら行う「森林環境学習を中心とした学習活動」です。春、夏、秋の森の様子を観察したり、樹木の手入れや木材加工を見学したりします。

5・6年生は「博士山」のぶな林を探索し、森の役目を学んだりカツラの木に登ったりして樹木に親しみます。

3・4年生は樹木の伐採の見学、1・2年生は学校の裏山の探査を行います。秋から冬にかけては、学級ごとに木工クラブを楽しみます。キーホルダーやフォトフレーム、木製のスプーンなど、日常生活を楽しむものがいっぱい、今年は何を作るのかなと、とても楽しみにしています。

5・6年生は、理科の学習とも合わせて、「せせらぎスクール」を行っています。地域の川はきれいな川なのかどうか、水棲生物を調べて、福島県に報告しています。きれいな川とし





て県内の川の地図にのると、とてもうれしいです。

これらの学習は、西山でしかできない、西山ならではの活動であり、私たちがこれからもこの地域で生きていくために、とても大切な学習なのだと思います。この活動に多くの地域の方々が協力してくださっていることに、とても感謝しています。

秋には、地域の景勝地に出かける「秋に親しむ会」があります。長い距離を歩くのは大変ですが、秋の草花を見たり木の実を拾ったりしながら、みんなでにぎやかに過ごせる、とても楽しい一日です。

このように、西山小学校緑の少年団は、多くの地域の方々に支えられ、楽しい活動も大変な作業もみんなで協力しながら取り組んでいます。

これからも、私たちが住む西山を知り、地域の方々と一緒に、地域の緑化にかかわっていきたいと思います。

人数は少なくても、私たちにできる小さなことを、一つ一つ積み重ねていきます。



13



14



15



16



17



18



19



20



21



22



23



タイトル

清見の豊かな森林を 未来につないでいくために

発表者

なかむら 中村 こなつ さん(写真左) まるやま 丸山 咲季 さん(写真右)

皆さん、こんにちは。私たちは清見中学校緑化少年団です。よろしくお願いします。

私たちの通う清見中学校がある高山市は、岐阜県の北部に位置し、東京都と同じくらいの面積がある日本一広い市です。そして、その森林率はなんと約92%。圧倒的に森林に恵まれた自然豊かな地域です。

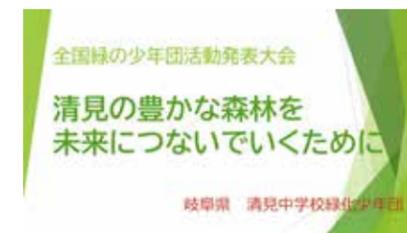
私たちが住む「清見地区」はさらに市街地から離れた場所にあり、新緑や紅葉など四季によって様々な色を見せる森林や、清らかな川、澄んだ空気といった美しく豊かな自然に囲まれた「清見」が私たちは大好きです。

「この先もずっと自然あふれる大好きな清見であってほしい」

この願いのもと、「豊かな森林を守り続けるには、私たちはどんな役割をはたせばよいのか」その答えを見つけるために、森林を愛する地域の方々の協力を得て、「清見里山プロジェクト」に取り組んできました。

これから、その活動について紹介します。

まず、1つ目は、「森林学習」です。飛騨高山森林組合の方から森林の大切さや管理のしかたについて教えていただきました。



1



2



3



4



5



6



- 森林を放置していると荒れてしまい、災害につながることを学びました。
- 「間伐」という方法で、計画的に木を伐るなどの管理をしていることを学びました。
- 豊かな森林は、美しい景色や防災だけでなく、きれいな水や生き物のすみかを生み出すなど、多くのよさがあることを学びました。

これまで「木を伐ることは、自然を壊すこと」と勘違いしていた私たちにとって、大きな衝撃でした。また、豊かな森林が生み出すきれいな「清水(きよみず)」が「清見」の名前の由来と聞き、誇らしく感じました。

2つ目は、「間伐作業体験」です。実際に木を伐り倒す作業を初めて体験しました。チェーンソーでただ伐り倒すだけだと思っ
ていましたが、ロープや滑車を使って安全に木を倒す工夫がされていることを知りました。みんなでロープを引っ張ってもなかなか倒れず、1本の木を間伐するにも多くの手間や力、時間が必要で、大変な作業だと実感しました。

木を伐った後に上を見上げると青空が広がっていました。森林組合の方に「間伐」とは日光を取り入れる作業と教えていただいた意味がよく分かりました。また、豊かな森林が守られていることは当たり前ではなく、その背景には多くの方々の努力があることを学びました。

3つ目は、「伐採した木を活かす仕事の見学」です。

- 木も、魚や野菜と同じようにセリで買われていること
- 木の特徴を生かした加工や商品開発がされていること
- 全国から清見の木材や加工製品が買われたり、木工技術を学ぼうと人が集まったりしていることを初めて知りました。

多くの方から清見の木が愛されていることや、清見の素晴らしい木を生かしたいと考え、この地に工場や木工技術を学ぶ学校を建てた話を聞き、誇りに思いました。

4つ目は、「グリーンウッドワーク」です。

この活動は、身近な森で伐った生木を手道具で割ったり削ったりして暮らしの道具を作る木工のことです。木を加工する作業の大変さを感じるだけでなく、様々な道具や技術から、先人たちの知恵が脈々と受け継がれていることを実感しました。すべて手作業で加工するのはとても大変だったけれど、自分の手で間伐した木材を使った世界に一つだけの「スツール」作りはとて

も楽しく夢中になりました。また、この体験を通して、木工の仕事に魅力を感じる仲間もいました。

他にも、地域貢献活動として、「清見 寿りんご栽培活動」にも取り組みました。地域ボランティアと共に、「摘果作業」や「袋かけ作業」、「シール貼り作業」、「収穫作業」を行い、収穫したりんごは、地域のお世話になっている方々に届けました。また、1月の「20歳の集い」では「寿りんご」として先輩方に贈呈しました。地域の方々の喜びの声や、先輩方の中学生の頃を懐かしむ声を聞き、これまでずっと続いてきた活動に自分たちが参加できたことを誇りに思いました。

私たちは、これらの活動を通して、豊かな森林に恵まれた「清見」を誇りに思う気持ち、森林を守る仕事や清見の木の価値を活かす仕事、清見のよさを私たちに伝える活動をしてくださる地域の方への感謝の気持ちをもつことができました。

そして、新たに感じた思いがあります。

それは、「清見の森林を守り活かす担い手としての思い」です。

清見の豊かな森林を守り続けるには、これらの活動だけで私たちの役割を果たしたとは言えません。今回の活動を通して、森林を守る仕事や木工の仕事を進路選択の1つとして考える仲間や、清見の将来を考える学習で森林を活かしたまちづくりの提案をする仲間があらわれたように、自分が森林を守り活かす担い手の一人であると自覚し、行動につなげていくことが大切だと気づきました。

私たちはこれからも、豊かな森林と共に生きる「清見」「飛騨高山」を愛し、豊かな森林の恵みに感謝しながら、森林を守り生かす担い手として自分にできることを考え行動していくことで、「清見中緑化少年団」としての役割を果たしていきたいと思

います。これで発表を終わります。ご清聴ありがとうございました。





タイトル

ふるさと朝倉を守り育てる
～よみがえれ!! 緑の笠松山～

発表者

い で さわと
井出 爽斗 さん(写真左)
たんじ めい
丹治 芽生 さん(写真右)
にしざき ここな
西崎 心莉 さん(写真中)

笠松山は朝倉に住む人にとって特別な山。地域に住む人はみんな、毎日、山を見上げ、元気をもらってきました。

「あー 熱い」

「熱いよ 助けて お兄ちゃん」

平成20年8月24日、笠松山で山火事が発生しました。多くの方が消火活動に参加し、翌日には、空からの消火も始まりました。自衛隊よりヘリで消火活動に参加して下さったのは、現在、今治市防災危機管理課にいる玉井さんです。玉井さんは、燃える笠松山を見て、とても人の力では対処できないと直感したそうです。燃え続けた火は5日後にやっと鎮火しました。この火災で、美しい緑の笠松山は、失われてしまったのです。

そこで、私たちは、「朝倉のシンボル、笠松山の緑を増やそう」と、植樹活動と山の勉強を始めました。先輩たちが始めた「朝倉のシンボル、笠松山の緑を増やそう」プロジェクト。緑を増やし、守る活動をこれからも続けていきます。

永井さんは昭和2年生まれの98歳。子供のころから毎日笠松山を見上げ過ごしてきたそうです。朝倉の子どもたちの植樹によって、笠松山が復興できた。これからずっと見守ってほしいと、声をかけていただきました。

「緑を取り戻すのに、ずいぶん時間がかかったね。」



「緑の少年団のみんな、地域のボランティアの方々、本当にありがとう。」

「おや、きれいな川が流れているね。あそこは?」

「あれは頓田川。そして、あそこにいるのは、朝倉小学校の4年生?何をしているんだろう。」

4年生は、地域の清流「頓田川」を守る活動をしています。生き物調べでは、豊かな自然の中でたくさんの生物が生きることが分かりました。川周辺の清掃活動も行っています。生き物が住める環境を、これからも守っていききたいと思います。

私たちは、この豊かな自然の素晴らしさを味わい、全校みんなで楽しむ活動もたくさんしています。

地域の竹を使って遊ぶ「竹遊び」、「竹飯盒」。田植えや稲刈り。収穫後の藁を使って、しめ縄を自分たちで作る、今年は、お正月を迎えました。

ほかにも、1年生は、アサガオ。2年生は、野菜。3年生は、ひまわりやホウセンカ。4年生は、へちま、綿花。そして、栽培美化委員会を中心に、全校みんなで、校庭でたくさんの植物を育て、地域の方々に喜んでいただいています。

今年は、全国植樹祭に向けて、杉とヒノキの苗木を育てています。

「見える。見える。」

「笠松山からも、学校が、いつも緑ときれいな花でいっぱいなのが、よく見える。」

「みんな楽しそうじゃのう」

地域に住む みんなの思いを わたしたちは、未来へ 受け継ぎ、もっともっと緑を増やしていこうと誓いました。

しかし、今年3月23日、今治で再び、森林火災が発生。朝倉小学校は避難所となり、夜通し燃える笠松山を見ていました。入山規制の解除後、ゲストティーチャーの方々と共に、現状調査に向かいました。そして、先輩たちが植樹し、見守り続けてきた、朝倉のシンボル「笠松山」の木々が、焼失しているのを見て、笠松山の再生を心に誓いました。

今は、山火事で生き残った「コバノミツバツツジ」の枝を使って、挿し木をし、苗を育てています。

そして、来年の3月ごろに再び笠松山に植樹する予定です。

「朝倉緑の少年団のみんな、ほんとにほんとにありがとう」

これからも、朝倉緑の少年団全員でこの活動を続けていききたいと思います。再び緑いっぱいの笠松山を目指して。

これが、朝倉緑の少年団です。





タイトル

らんま先生の
SDGsサイエンスステージ
森と水の大切さを学ぼう!

講師

eco実験パフォーマー
らんま先生

プロフィール 1995年インドネシアのNGO団体にて植林活動、農業アシスタントを経て帰国。国内で先生を10年間務めた後、環境パフォーマンスを追求するため退職。ジャグリング・マジックコンテストで優勝したパフォーマンス技術をいかし、環境問題と科学実験、パフォーマンスを融合し「環境パフォーマンス」という新しい形を作りあげる。09年環境問題に対する高い専門性、知識が認められ環境省認定 環境カウンセラーとして、日本では初めて環境省から「環境パフォーマー」の認定を唯一受けた。

- 2011年8月 被災地支援、社会貢献 (CSR) 活動が評価され「ソーシャルビジネスグランプリ2011共感大賞」を受賞。
- 2015年2月 沖縄で実施された、料理の鉄人の科学版、科学の鉄人のサイエンスプレゼンテーションの全国大会で優勝。第12代 科学の鉄人の称号を得る。
- 2018年3月25日 ecoなエネルギーを利用した空気砲 (Most smoke rings launched into a target using an air vortex cannon in one minute) の実験で環境講師としては史上初、科学実験講師としても日本人で初めてギネス世界記録を作る。日本人で唯一の科学実験の世界記録保持者
- 2020年8月 ニューヨーク国連本部協賛のSDGs7番の動画の監修と出演。
- 2025年4月 大阪万博にて環境ステージを実施。ecoをテーマにした科学実験を国内外で20年間で3500公演以上実施し続けている。





公益社団法人国土緑化推進機構
専務理事
おりたひろし
織田 央

全国緑の少年団活動発表大会を振り返って

本日発表いただいた5つの緑の少年団は、いずれも、自然環境をはじめとする地域の特色を活かし、地域の方々の支援・協力も得ながら、すばらしい活動を一生懸命に行っており、とても感動しました。とりわけ、

- 上札内緑の少年団は、身近な自然環境をフィールドとした各種の活動から多くの知識を得るとともに、リース作りを通じてものづくりの大変さと喜びを学んでいる点
- 大和町吉田みどりの少年団は、6年間のアオダモの育成活動の中で、様々な作業を体験することで、樹木への愛着を育みながら、樹木を育てることの大変さと大切さを学んでいる点
- 西山小学校緑の少年団は、自然環境・林業・木材利用等に係る幅広い学びを得るとともに、花壇づくりを通じ町の美化意識の向上に大きな役割を果たしている点
- 清見中学校緑化少年団は、主体性を持った高度な活動から、林業・木材産業に関わる多くの実践的な知見を得るとともに、森林の担い手としての意識も芽生えている点
- 朝倉緑の少年団は、火災により被害を受けた森林に緑を取り戻すための活動を、先輩から後輩へと引き継ぎながら、長年にわたって継続して行っている点

などは、他の模範となる極めて有意義なものであると強く感じました。

豊かな森林は、災害や地球温暖化を防ぎ、多様な生物を育むなどの役割を果たしてくれます。また、きれいな水や空気、美しい景観、木材など多くの恵みを私たちに与えてくれます。

このような豊かな森林を守り育てるため、今日この会場に集まった皆さんがリーダーとなり、全国の緑の少年団の皆さんと手を携え、地域を愛する心と協力してくださる方々への感謝の気持ちを忘れず、今後も活発に活動されることを大いに期待します。

活動発表1 上札内緑の少年団 北海道

日高山脈に隣接する豊かな自然環境の中で、少年団活動の3本柱である学習・地域貢献・レクリエーションをバランスよく織り込んだ様々な活動が行われています。

特に、野鳥観察、バードハウス設置、山菜採り体験、フィールドワーク、植樹・育樹活動などを通して、身近な自然環境から多くの学びを得ているものと推察されます。

また、春の学校花壇への種まきから始まるリース作りは、自然を慈しむ気持ちを育むとともに、ものづくりの大変さと喜びを知ることのできる貴重な体験になっているものと考えられ、高く評価されます。

さらに、リースの販売や村民文化祭への生け花出展、木製遊具を使った高齢者とのスポーツ体験などの活動により、地域に明るさと笑顔をもたらしていることが強く感じられます。

これからも、「人と人とのつながり」や「地域を思いやる気持ち」を大切にしながら、楽しく活動に取り組んで下さい。

活動発表2 大和町吉田みどりの少年団 宮城県

山々に囲まれ緑豊かな環境で、低学年では主に自然に親しみを感じ興味が沸くような活動が、また高学年では主に森林や自然の生態・役割について学ぶ活動が、活発に行われています。

特に、「体験の森」でのアオダモの育成活動は、上級生・下級生がそれぞれ役割を担いつつ、全員が協力して行う取組であるとともに、6年間の取組を通じて、樹木を育てるには様々な作業が必要であり、かつ、長期間を要することを学ぶことができる素晴らしい活動であり、他の模範となるものです。

また、地域の方々の支援を受けて、下流の人たちのためにも吉田の緑を守ることが大切であることを学んでおり、そのことを通じて素晴らしい郷土愛も育まれているように感じられます。

これからも、「自分たちに何ができるか」を考えながら、地域の皆さんと一緒に頑張って活動を続けて下さい。

活動発表3 西山小学校緑の少年団 福島県

福島県会津地方の豊かな自然の中で、地域の方々の支援と協力を得て、花壇への花の植栽活動や森林環境学習に係る活動を中心に、様々な活動が精力的に行われています。

特に、森林環境学習においては、樹木伐採見学等の林業体験、ブナ林をはじめとする原生的な自然についての学習、水棲生物の調査、木製クラフト作りなど、様々な視点からの学習活動が盛り込まれ、多くの学びを得ているものと推察される点であり、高く評価されます。

また、道路わきの花壇づくりでは、団員が整地や苗づくりなどの準備段階から熱心に取り組むとともに、中学生や地域の方々と協力して植栽を行っており、そのことを通じて、町全体の美化意識の向上に大きな役割を果たしているものと確信します。

これからも、地域の自然や林業についてよく学びながら、地域の方々と一緒に、着実な活動を頑張ってください。

活動発表4 清見中学校緑化少年団 岐阜県

岐阜県高山市の森林に恵まれた地域で、主に林業・木材産業に関わる分野を中心に、中学生の団ならではの極めて高度かつ総合的な活動が活発に行われています。

特に、「清見里山プロジェクト」活動は、地域の魅力の発見や様々な疑問の提示などの団員の考えからスタートすることで、主体性をもった活動となっているとともに、専門家による講話、作業体験、各種の現場見学等を通じて、疑問点の解消のみならず、林業・木材産業に関係する多くの学びを得ており、特筆すべきものです。また、活動を通じて、森林を活かす担い手としての思いが芽生えている点も大変強く感じられました。

さらに、りんごの栽培活動は、地域の一体感と郷土愛の醸成に大きく貢献しているものと推察されます。これからも、豊かな森林を未来につないでいくための活動に、一人ひとりがその担い手であるという思いをもって取り組んで下さい。

活動発表5 朝倉緑の少年団 愛媛県

三方を山々に囲まれた田園地帯において、植樹や樹木の生育調査、川の生き物調査、水質調査、野菜栽培、米づくりなど多様な活動が活発に行われています。

特に、平成20年の森林火災により被害のあった笠松山の再生に向け、植樹や樹木の生育調査を先輩から後輩へと引き継ぎながら、長年にわたって継続して行ってきたことは、極めて意義深く、高く評価されます。

また、農業地帯であることから、農業生産に不可欠な川の水質調査や、野菜栽培、米づくりなどにも取り組んでおり、農業の大変さや大切さに対する理解も深まっているものと推察されます。

笠松山は今年再び大規模な森林火災に見舞われました。少年団のみなさんも大変怖い思い、悲しい思いをされたと思いますが、地域のシンボルである笠松山が緑豊かな山によみがえるよう、決意を新たに、植樹等の活動を頑張ってくださいと思います。

みどりの奨励賞表彰 (国土緑化推進機構理事長賞)

「みどりの奨励賞」は、緑の少年団活動において、日々、優れた活動を行い、かつ今後の活動の充実が期待できると認められた緑の少年団に贈られます。



上札内緑の少年団
(北海道)

大和町吉田みどりの少年団
(宮城県)

西山小学校緑の少年団
(福島県)



清見中学校緑化少年団
(岐阜県)



朝倉緑の少年団
(愛媛県)

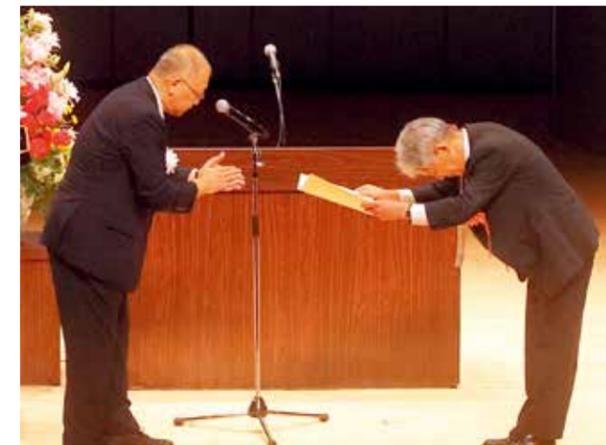
緑の少年団育成成功労賞表彰

「緑の少年団育成成功労賞」は、緑の少年団の育成に多大な貢献をされた、個人並びに団体に贈られます。



団体の部 かみやましいたけ
神山椎茸生産販売協同組合 (徳島県) 写真右

個人の部 ささき かつよし
佐々木 勝義 (宮城県) 写真左



神山椎茸生産販売協同組合
(徳島県)



佐々木 勝義
(宮城県)

閉会のことば



宮城県 副教育長
ちば じゅんいち
千葉 潤一

本日は多くの皆様に発表大会に御参加いただき、誠にありがとうございました。発表されました少年団の皆様も、日頃の活動について、元気よく、大変素晴らしい発表をしていただきました。本当にお疲れさまでした。

森林など自然環境は、私たちが生きていくのに欠かせないさまざまな恩恵を与えてくれています。これからも皆様が活力ある森林づくりに取り組んでいただくことを願ってやみません。

このあと、緑の少年団の皆さんは、利府町のリフレッシュプラザで行われる交流集会に参加されます。日頃の活動について、お互いに情報交換し、交流を深めていただき、明日の式典への参加とともに、宮城での出会いが皆様の良き思い出になりますよう願っております。

最後に、本日お集まりの皆様方の御健勝をお祈り申し上げ、閉会の挨拶とさせていただきます。

本日は大変ありがとうございました。

緑の少年団参加一覧

活動発表大会

【発表団体】



上札内緑の少年団
(北海道)



大和町吉田みどりの少年団
(宮城県)



西山小学校緑の少年団
(福島県)



清見中学校緑化少年団
(岐阜県)



朝倉緑の少年団
(愛媛県)

交流集会

【宮城県みどりの少年団】

白石第一小学校みどりの少年団
大鷹沢地区みどりの少年団
船迫みどりの少年団
将監小学校みどりの少年団
塩竈第一小学校みどりの少年団
大和町吉田みどりの少年団
東のみどりの少年団

【県外緑の少年団】

上札内緑の少年団 (北海道)
西山小学校緑の少年団 (福島県)
清見中学校緑化少年団 (岐阜県)
朝倉緑の少年団 (愛媛県)

交流集会

開催日
令和7年10月4日(土)

開催場所
宮城県総合運動公園(グランディ・21)
リフレッシュプラザ

参加者
128名



令和7年10月4日(土)の全国緑の少年団活動発表大会終了後は、利府町の宮城県総合運動公園(グランディ・21)リフレッシュプラザにおいて、参加した県内外の少年団が、レクリエーションや宿泊などを通じて交流を深めました。



(付録) 宮城県内みどりの少年団活動紹介パネル

- | | | | | |
|------|---|----------------|---|--------------|
| 白石市 | 深谷小学校みどりの少年団
小原みどりの少年団
白石第一小学校みどりの少年団
白石第二小学校みどりの少年団
越河みどりの少年団
白川小学校みどりの少年団
大鷹沢地区みどりの少年団
福岡小学校みどりの少年団
大平小学校みどりの少年団
北郷みどりの少年団 | 松島町 | 松島第二小学校みどりの少年団
松島第五小学校みどりの少年団 | |
| 角田市 | 大角原南小学校みどりの少年団 | 大衡村 | 大衡中学校みどりの少年団 | |
| 大河原町 | 金ヶ瀬小学校みどりの少年団 | 加美町 | 大衡小学校みどりの少年団
鹿原みどりの少年団
やくらみどりの少年団 | |
| 柴田町 | 船迫みどりの少年団 | 栗原市 | 宮野小学校みどりの少年団 | |
| 川崎町 | 野上みどりの少年団 | 登米市 | 米山東小学校みどりの少年団
米川小学校みどりの少年団
(現:東みどりの少年団) | |
| 丸森町 | 館矢間小学校みどりの少年団 | 石巻市 | 津山小学校みどりの少年団 | |
| 仙台市 | 将監小学校みどりの少年団 | 東松島市 | 雄勝小学校みどりの少年団
宮野森小学校みどりの少年団 | |
| 塩竈市 | 塩竈第一小学校みどりの少年団 | 大曲小学校みどりの少年団 | 大塩小学校みどりの少年団 | |
| 亘理町 | 亘理小学校みどりの少年団 | 鳴瀬桜華小学校みどりの少年団 | 矢本東小学校みどりの少年団 | |
| 利府町 | 利府みどりの少年団 | 津谷小学校みどりの少年団 | 入谷小学校みどりの少年団 | |
| 大和町 | 大和町吉田みどりの少年団 | 志津川小学校みどりの少年団 | 伊里前小学校みどりの少年団 | |
| 松島町 | 松島中学校みどりの少年団
松島第一小学校みどりの少年団 | 気仙沼市 | 南三陸町 | 名足小学校みどりの少年団 |



